和文タイトル

 和文副題

Title

 Subtitle

予備欄1：最終原稿作成時より著者氏名1\*・氏名2\*\*･･･（和）を右寄せで記載する

予備欄1：最終原稿作成時より著者氏名1\*, 氏名2\*\*･･･（英）を右寄せで記載する

Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract. Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract., Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract, Abstract.（100～120word程度）

*Keywords*: Keyword1, keyword2, keyword3・・・・

キーワード１, キーワード２, ・・・・

1．はじめに

　日本は、・・・

・・・～である (1) 。

・・・Ichiban 1) は●●であると結論づけている。一方で、二番 2) のように●●との指摘もある。

三番・四番 3) において、●●に関係を見出し、Goban and Rokuban 4) では●●としている。

図-1　●●●●●

原稿分量は、1頁目を1行26字×30行×2段＝1,560字とする。本文における行と段落の間隔は変更しないこと。

文字数と行数は変更しないこと。

　七番ら 5) の研究によれば、●●●●●●●●●であり、Hachiban et al. 6) では●●としている。

・・・とある (2) 。

　本研究では、・・・

・・・その結果を●●する。

　　　　　　　　　　　各章の直前1行はあけること

2．●●における●●

　・・・

原稿分量は、2頁目以降は1行26字×50行×2段＝2,600字とする。本文における行と段落の間隔は変更しないこと。

文字数と行数は変更しないこと。

表-7　●●●●●

式(1)は、

$$f\left(x\right)=a\_{0}+\sum\_{n=1}^{\infty }\left(a\_{n}\cos(\frac{nπx}{L})+b\_{n}\sin(\frac{nπx}{L})\right)$$

と表せる。

＜謝辞＞

第1次審査用原稿には、謝辞等は記載しない。最終原稿に作成時に記載。

【補注】

(1) ●●●●●●●●●●●●●●●

(2) ●●●●●●●●●●●●●●●

(3) ●●●●●●●●●●●●●

【参考文献】

1) ○○○○（○○○○年）, 「○○○」, ○○ Vol. ○○ No. ○○, pp. ○○-○○, ○○

2) ○○○○, ○○○○, http://○○.jp/○○/○○/, ○○○○年○月

3) ○○○○（○○○○年）, 「○○○」, ○○ Vol. ○○ No. ○○, pp. ○○-○○, ○○

**【発表付用】**論文作成時にご留意いただきたい内容

第1次審査において、要修正再審査となった場合、修正内容に従って、最終審査用原稿を作成いただくことになります。修正対応の結果、論文分量が多くなる傾向があるため、第1次審査用原稿においては、**最大で7頁と半分**ほどにて作成しておくことが望ましいと考えます。